

なりきって楽しむ

体育科

1年C組担任

南 拓哉



1 表現遊びをする前に

1Cの子どもたちが表現遊びに取り組む前に、リズム遊びを行なった。「パプリカ」のダンスと「ワクワクわかやまワンダーランド」の2つを取り入れて、リズムに乗って踊ったり、最後のポーズを自分たちで工夫したりして決められるようにした。パプリカは子どもたちが休憩時間に口ずさんでいたり、テレビを見て知っていたりすることもあり、リズムに乗って踊っていた。子どもたちの身近にある音楽やダンスを使うことで、踊ることへの気持ちも入りやすかったのではないかと感じた。

単元を進めるに連れて、友だちと向かい合わせになって踊ったり、次の踊りを声に出して友だちに伝えたりする姿が見られるようになった。毎時間、学習の始めにリズム遊びを取り入れることで、子どもたちが楽しい気持ちで学習に迎えることができると共に、自然と友だちと関わる事ができた。



2 表現遊び

単元の前半は、自分のなりたい生き物や教師の示した生き物になって「〇〇が散歩している」を表現するようにした。次に、「おいしい食べ物を見つけた」「大変、食べられる」といった、お話を変化させるようにし、動きに速さや高さが出るようにしていった。また生き物だけでなく、「葉」と「風」をお話にして、転がったり、強弱をつけたりして表現ができるように教師が指示して活動する場面を取り入れた。風に乗って飛んでいった葉が、風が止んでゆらゆらと落ちていく様子を、子どもたちは、ゆっくり体を揺らしながら、しゃがんで寝転がって表現していた。葉が落ちる様子を生活経験と繋げた場面ではないかと感じた。

次に、「自分たちでお話を作って表現する」に取り組んだ。個人では気付かなかった表現の仕方や友だちと動きを合わせて表現するために、3人チームを作った。チームで、「お話を考えて作る」「どのように動く」といったことを話し合いながら、友だちに発表できるようにしていった。発表では「パンダが笹を探して、笹を見つけて食べる」を考えたチームの子どもたちは、最後までパンダになりきって表現していた。それを見ていた友だちも「パンダの動き方に似ていた」「食べている様子がよくわかった」と友だちの表現をよく見ていた。発表を見るだけでなく、友だちのチームの「よかったところ」を見る視点にしたことで、最後まで表現している様子を見たり、気付いたことを発表したりする子どもたちの姿が見られた。また気付いたことから、「自分ならどう表現する」と問い、それぞれが表現を考えて動くようにした。花の成長を表現したチームの後では、何人かの友だちと集まり、手を繋いで花の輪郭を作り、一人を中心に入れて花にしたり、足を上げて模様のようにしたりしていた。また、寝転がって表現する子どもたちもいた。



今後も、表現したい物を友だちと対話しながら活動したり、表現やリズムに乗ったりすることが楽しいと感じられる授業を研究していきたい。